2016年7月8日

お客様各位

セイコーソリューションズ株式会社

NS-2250 システムソフトウェア Version 1.1.1 リリースノート

目次

Version 1.1.1　(リリース日：2016/7/8)

Version 1.1.1 では以下の機能拡張を行いました。

1　シリアルポートの DSR 信号遷移検出機能の拡張

シリアルポートの DSR 信号遷移検出方式にポーリング方式を追加しました。
従来の検出方式(edge)は、DSR 信号の遷移を厳密に検出しており、実際の対向装置の DSR 信号遷移以外にノイズなどのごくわずかな時間の信号遷移にも反応する場合があります。
新たに拡張した方式(polling)は、検出を緩やかに行い、DSR 信号の状態が OFF→ON 及び ON→OFF へ約 10 ミリ秒以上続いた場合に信号遷移を検出します。

本機能強化により、set tty detect_dsr コマンドに edge と polling オプションを追加しております。
本コマンドのデフォルトは off(無効)です。
on オプションを選択した場合のデフォルトは edge です。

```
set tty <ttylist> detect_dsr { on [{edge | polling}] | off }
```

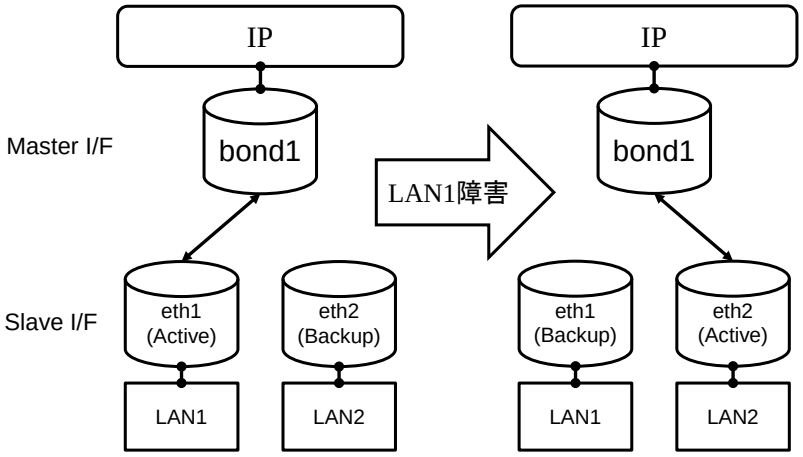
Version 1.1　(リリース日：2016/5/13)

Version 1.1 では以下の機能拡張や不具合修正を行いました。

1　ボンディング機能の追加

2 つの LAN ポートを仮想的に 1 つのポート(bond1)として動作できるよう機能拡張を行いました。
動作モードはアクティブ/バックアップ方式です。通信に使用するポートはアクティブポートのみで、バックアップポートから受信したパケットは内部で破棄されます。

ボンディング機能有効時、使用する IP アドレスは 1 つで bond1 のみに設定します。
アクティブポートとバックアップポートの切り替わりは、アクティブポートのリンクダウン検出による自動切り替えと、switch bonding コマンドによる手動切り替えの 2 方式をサポートしています。
リンクアップによる自動切り戻りはありません。
アクティブポート切り替え発生時には GARP を送出します。



2　シリアルポートのラベル名設定の仕様変更

set portd tty label コマンドで設定するシリアルポートのラベル名にスペースを使用できるよう仕様を変更しました。スペースを含む文字列の場合、ダブルコーテーションで囲んだ文字列で指定します。

3　trace icmp 機能の追加

radius/tacacs に加え icmp のデータをトレースできるように、trace コマンドのオプションに icmp を追加しました。

4 GNU C ライブラリ(glibc)脆弱性(CVE-2015-7547)の対応

GNU C ライブラリ(glibc)脆弱性(CVE-2015-7547)を対処しました。
旧システムソフトウェアで DNS サーバ設定をしている場合、以下のコマンドや処理において脆弱性の影響を受ける可能性があります。
脆弱性の影響を受けたパケットを受信した場合、スタックオーバーフローを起こし、コマンドや FTP 転送が異常終了する場合があります。

- ping/telnet/traceroute コマンド
- ポートログの FTP 送信

Version 1.0.3　(リリース日：2016/3/14)

Version 1.0.3 では以下の不具合を対処しました。

1　システムが再起動する不具合の対処

電源 ON や再起動により本装置を起動した後、約 100 日後に Watchdog Reset が発生し、システムが再起動する不具合を対処しました。

Version 1.0.2 (リリース日：2016/1/20)

Version 1.0.2 では以下の不具合を対処しました。

1 装置の時刻がずれてしまう不具合の対処

年に関係なく 10 月に下記のいずれかのコマンドを実行すると、装置の RTC(Real Time Clock)に不正な値が書き込まれ、12 月以降の装置起動で時刻がずれる不具合を対処しました。

- date もしくは date ntp コマンドによる時刻設定
- reboot コマンド
- shutdown コマンド

本不具合で RTC に不正な値が書き込まれても、12 月以降に装置を起動するまでの間は正しい時刻がシステムに適用されておりシステムの動作に影響はありません。
12 月以降に本装置を起動して時刻がずれると、コンソールアクセスなどの機能は正常に動作しますが、NS-2250 の内部ログや Syslog が不正な時刻になります。
NTP サーバから時刻を取得する設定をされていても、10 月に上記のコマンドを実行された場合は、次の再起動から NTP サーバから時刻を取得するまでの間は不正な時刻になります。

2 時刻変更の影響により、設定やログファイルが初期化される不具合の対処

装置起動時の日時よりも装置内部に保存されている下記ファイルへのアクセス(保存・参照)日時が新しい場合、対象ファイルが初期化されます。

- 本体内部の設定ファイル
- 本体のシステムログ
- シリアルポートのポートログ
- logsave コマンドによって保存されたポートログ

例えば装置起動後 write コマンドなどによって設定を保存したのち、date コマンドや NTP サーバのアクセスなどで本体のシステム時刻が大きく過去に戻された場合、設定ファイルのアクセス日時は修正された日時情報よりも未来のものになっています。本不具合は次回起動時に装置時刻よりもファイルアクセス日時が 1 日以上新しい場合ファイルを初期化してしまう不具合です。
なお USB メモリに保存されている設定ファイルは初期化されません。

3 時刻変更の影響により、システムが初期化される不具合の対処

装置再起動後に date コマンドや NTP サーバのアクセスなどでシステム時刻が大きく過去に戻されたのち、restore コマンドによるシステム復元を行うとコマンドがエラーとなり、restore コマンドにて指定した復元先(main/backup)のシステムが削除される場合があります。

Version 1.0.1　(リリース日：2015/10/23)

Version 1.0.1 では以下の機能改善や不具合修正を行いました。

1　起動時処理の改善

設定ファイルから読み込む際のコマンドチェック処理を変更し、起動時処理の時間を短縮しました。

2　echo コマンドの仕様改善

echo コマンドを起動時のみ実施されるものとし、通常の CLI(Command Line Interface)では何も表示しないよう仕様を変更しました。
設定情報を CLI から流し込む際に、設定に含まれる echo コマンドの出力が設定の妨げになることを防ぐ事ができます。

3　経路の異なる受信パケットを廃棄する不具合の対処

受信パケットのソース IP アドレスが受信 LAN ポートの経路情報に含まれていない場合、そのパケットを廃棄してしまう不具合を対処しました。

4　delete ip route の不具合を対処

同じ宛先で異なるゲートウェイのルートが複数設定されている場合、delete ip route コマンドでルートを削除すると、指定したルートと異なるルートを削除してしまう不具合を対処しました。

5　Telnet/SSH セッション上のコンソールログ出力が停止する不具合を対処

Telnet/SSH クライアントから本装置にログインし console on コマンドを実行してそのセッション上でコンソールログを出力している場合に、新規の SSH 接続で認証に失敗すると、Telnet/SSH セッション上のコンソールログ出力が停止してしまう場合がある不具合を対処しました。

以上